

# 栃木県宇都宮市・芳賀町



・人口減少や少子・超高齢社会の中においても、子どもから高齢者まで誰もが移動しやすく暮らし続けられるまちの土台となる「ネットワーク型コンパクトシティ」を実現するため、地域拠点、産業、観光拠点などの拠点間を繋ぐ基幹公共交通としてライトラインを整備し、利便性の高い公共交通ネットワークを実現

## (取組の概要)

### 1. 多様な主体の実質的参画

- LRTの事業化に向け、「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」(有識者や行政<国・県>, オブザーバー<交通事業者や近隣市町>など30名で構成)を設置。更に下部組織として5つの部会において、車両やデザイン、交通結節点、まちづくり、整備効果などを検討。
- 沿線住民や企業などと膝を交えた意見交換会の実施や市内全39地区の連合自治会への説明会、更には、市民フォーラムやオープンハウスなどの説明機会を設けるなど、約1,000回以上の丁寧な説明会を実施し住民理解を促進。
- 車両のデザインや愛称を市民アンケートで選定するとともに、全19停留場の地域性を創出するため、住民とともに壁面個性化のデザインワークショップを実施し、ライトラインが将来にわたって地域に愛されるようマイルール意識を醸成。



デザインワークショップ



愛称アンケート



信用乗車 (セルフ乗車)

### 2. 創意工夫

- 交通系ICカード活用による全扉からの乗降可能な信用乗車(セルフ乗車)方式を採用し、定時制・速達性を確保。
- 「Suica」と一体化した宇都宮市独自の交通系ICカード「totra」を発行し、バスやライトラインなどの運賃において乗継割引サービスや上限運賃制度、高齢者(満70歳以上)に対し10,000ポイントを付与し外出促進を図るなど独自の公共交通の利用促進策を展開。
- ライトライン開業前に宇都宮市内の中高生に対し「totra」を無料配布するとともに、市内の小中学生を対象に「小児用totra」を無料で取得できる引換券を配付するなど、子どもたちに将来にわたって公共交通を利用してもらえる機運醸成。
- 「トータルデザイン」を採用し、車両や停留場、サイン、ユニフォームなどについて、「雷都を未来へ」をコンセプトとしてデザインを統一し住民の愛着を醸成
  - 家庭ごみや太陽光発電等により発電された地域由来の再生可能エネルギー100%で走行する「ゼロカーボントランスポート」を実現するとともに、民間による電気バスの導入促進を図り、公共交通ネットワークの脱炭素化を推進。



### 3. 自立性・継続性

- 利用者ニーズや利用動向を踏まえダイヤ改正を3回実施し、朝ピーク時の快速運行を開始し利便性を向上させ、利用者数は、需要予測の約1.2倍(平日:約16,000人~18,000人, 休日:約10,000人)で推移し、運行事業者である「宇都宮ライトレール(株)」においては、開業初年度の決算は黒字化を達成。
- ライトラインの発着となる宇都宮駅東口においては、交流と賑わいなどを創出する交流拠点施設や商業施設などを整備するとともに、沿線においては新築マンションの建築による人口増加や外出率が増加するなど様々な効果が発現。
- ライトラインやバス、タクシー、地域内交通、デマンド交通、自動車などが連携するトランジットセンターの整備し、バスにおいては路線を再編し平日148本、休日18本の増便を図るなど利便性の高い公共交通ネットワークを構築。



# 栃木県宇都宮市・芳賀町

## 利便性の高い公共交通ネットワークの実現

◎ライトラインを整備したことにより、一部の既存バス路線を再編し、郊外部などに振り分け、バスネットワークの充実

●再編後のバスの運行本数(JR宇都宮駅東側)

	再編前	再編後	再編後
平日	506本	654本	+148本
土曜日	399本	414本	+15本
日曜日・祝日	320本	323本	+3本

※2023年8月再編時の運行本数

◎バス再編前後比較(郊外部からJR宇都宮駅までの所要時間と運賃)  
 定時性・速達性の向上と運賃の負担軽減により利用者サービスが向上

停留場名	再編前 (バスのみ)	再編後 (バス+ライトライン)	
芳賀町役場 (紫ルート)	74分 (930円)	59分 (740円)	※15分短縮 ※190円減
清原台3丁目	53分 (630円)	43分 (420円)	※10分短縮 ※210円減



2023年8月再編時